

居合道の活動

◎第五十八回全日本居合道大会

監督 香村 茂

令和五年十月二十一日、東京都足立区綾瀬の東京武道館において開催されました。

コロナ感染も終息近くになりましたが、大会では対策に十分に気を使われ日程等、時間割の設定、会場内では密にならないよう細かな係員の指示に従って行なわれました。

コロナ禍にあっても、すべての都道府県が大会に参加されました。

岐阜県から監督は香村茂、五段 村橋祐輝、六段 五十嵐啓司、七段 志津野泰幸、補助監督は参川憲昭、渡辺直が参加しました。

今年は例年がない猛暑になりましたが強化選手は熱中症と闘いながら厳しい強化稽古を乗り越えて大会に臨みました。

指定技は四回戦まで「受け流し」「諸手突き」「四方切り」「準決勝戦と決勝戦は「柄当て」「添え手突き」「総切り」でした。

試合は七段の部は志津野選手で一回戦は兵庫の盆子原選手に1対2で敗退、六段の部の、五十嵐選手は一回戦シードで二回戦は鳥取の花田選手に1対2で敗退、五段の部は村橋選手、一回戦は佐賀の末

次選手に3対0で勝利、二回戦は石川の田中選手に3対0で勝利、三回戦は山梨の長久保選手に惜しくも1対2で敗退しましたが村橋選手の健闘により岐阜県の総合成績は二十位でした。

全日本大会を終えて今後の課題として、技は正確に、仮想敵を倒す為の間と間合い、緩急強弱、気魄、残心等、強化稽古を通して居合道部全員で取組み、来年度以降の全日本大会には、今回より上位の成績が残せるように努力いたします。

◎第五十一回岐阜県居合道大会

古橋 節次

令和五年六月四日(日) 岐陽体育館にて開催された。コロナも終わりに近づきマスク姿が見られる中、県内各地より役員選手約百有余名が参加して盛大に行われ、岐阜連理事長下島貴代一先生も忙しい中臨席された。開会式に引き続き八段、参川、香村、古橋の三名による公開演武、続いて七段三組、十二名による予選三試合があった。この後二試合場に於いて初段以下の部から六段の部までの試合は展開し各部共、選手の技前は厳しい稽古の成果が現れ、見ごたえのある立派な演武が観られた。又、会場は熱気に溢れ大会はいやが上にも盛り上がった。

指定技は次の通り、受け流し、三方切、顔面当て、総切りであった。寸評、技前は決められた事を決められた様に角なく力強く丸く抜くように心掛けてほしいものです。成績は次の通り

地区別団体成績

- ①岐阜地区
- ②西濃地区
- ③飛騨地区

個人段別成績表

初段以下の部

- ①宮田康仁郎(岐)
- ②浅野 勉(岐)
- ③林 良樹(岐)

二段の部

- ①田中みのり(西)
- ②後藤 淳(岐)
- ③岡島 梨花(岐)

参段の部

- ①尾崎 嘉秀(岐)
- ②藤沢 宗可(岐)
- ③松枝 洋治(飛)

四段の部

- ①平賀 友大(岐)
- ②古田 宮紀(岐)
- ③丹羽あおい(岐)

五段の部

- ①村橋 祐輝(岐)
- ②安藤 健介(岐)
- ③澤田 健(岐)

六段の部

- ①五十嵐啓司(岐)
- ②栗本 英(岐)
- ③榎林 優(可)

七段の部

- ①志津野泰幸(岐)
- ②渡辺 直(岐)
- ③矢澤 夏女(岐)

◎居合道中央・地区講習会 (栃木)

香村 茂

令和五年七月二十二日～二十三日の両日、栃木県小山市栃木県立県南体育館に

て開催され、岐阜県から香村茂が派遣受講しました。

一日目、開講式で真砂威全剣連副会長のご挨拶と白石正範栃木県剣道連盟会長の歓迎と激励のご挨拶、役員・講師の紹介、草間純市居合道委員長から挨拶と日程説明と改訂された居合道試合・審判規則の紹介がありました。

その後、草間講師の解説で、全剣連居合の十二本目の内、一～六本目を勝瀬文孝講師、七～十二本目を桑田孝博講師が演武を行ない「指導上の留意点」を基本に説明された。

詳細に無駄のない理に合った相手を攻める為の動作、真剣勝負の心境で十分に稽古をするようにと指導された。

午後より段別に分かれ全剣連居合の実技を各講師より受講しました。

二日目、審判実技講習は、全日本居合道大会審判要領と改訂版に基づき段別に審判実技講習を実施し、勝敗の判定基準に基づいて適正公平な判定と入退場・交代・審判旗の取り扱い方法などの講習を受けました。

午後から古流の研究、各流派から代表者による技前の解説と演武の披露がありました。

閉講式で草間委員長から二日間の熱心な受講への感謝の言葉があり、小倉昇審議員から気魄の充実した居合人になれるように努力してほしいと挨拶があり二日間の講習会を終了しました。

二日間受講したことを県内に正しく伝達し斯道発展に努力致します。